

高安詰所だより

第6号

立教185年

6月20日



6月18日 教祖お入り込み記念一斉ひのきしん お礼参拝

教祖お入り込み百四十周年

六月十八日、待ちに待った「教祖お入り込み百四十周年」を感激の中に迎えさせて頂いた。有り難いことに、予想を上回る大勢の帰参者に詰所も大いに賑わった。思えば三年前、コロナ禍の始まる直前の十一月に「大教会創立百三十周年」をつとめさせて頂き、大教会の神殿は参拝者で溢れかえった。しかしその直後からコロナが蔓延し始め、人の集まりが自粛され、この二年半は寂しい状況だった。

それが漸くコロナが沈静化し始めた今日、こうして「教祖お入り込み百四十周年」で、再びおぢばは盛況の姿をお見せ頂けた。大教会にとって最も大切なこの二つの慶事を、ほぼコロナの影響を受けず、かくも盛況にとめられたことは、あり得ない奇跡だといえよう。百四十年の歴史を積み重ねて下さった先人達の遺徳を感じないではいられない。これからも大教会は百五十周年、二百周年と迎えることだろうが、「今日の姿は先人達の苦勞の賜だ」と思ってもらえるよう、私達も今をしっかりと伏せ込ませて頂こう。

詰所行事予定(七月)

三日 おぢば伏せ込みひのきしん

四日 詰所常会

八日 にをいがけ実動

十一日 勤務者修練

十三日 おつとめ勉強会

十七日 直轄祭参拝(大教会)

二十日 勤務者修練Ⅱ

二十三日 大教会月次祭参拝

二十五日 月例朝礼

二十六日 本部月次祭参拝者受入れ

詰所の動き

おぢば伏せ込みひのきしん(六月十八日)

毎年六月十八日は「教祖お入り込みおぢば伏せ込みひのきしん」で

すが、ここ数年はコロナの影響で人数制限されてきました。けれど



も今年は百四十年という節目の年で、久々に大勢の人々が集ま

り和気藹々と陽気にひのきしんさせて頂き、心地よい汗を伏せ

込ませて頂くことができました。また遠方の教会に於いてもこ

の日に合わせ、それぞれの地域でのひのきしんに励まれました。

(参加者 一〇二二名、教祖殿北庭 受付分)

にをいがけ実動(六月八日)

今月は定番、天理市西長柄町。「教祖お入り込み百四十周年」の

直轄団参に繋がるよう祈りを込め、気合いを入れ回らせて頂きま

した。出発に際し、「おさづけを意識したにをいがけを」とハッ

パをかけられましたが、炊事掛の西尾博之さんはこれを素直に受

けて実践され、生まれて初めて、にをいがけ先でおさづ

けを取次がせて頂くことができ、お

供えまで預りました。本人は「通い

先ができて本当にありがたいです。

やっぱり素直が第一ですね」と嬉しそうに話されていました。



註 写真はボイラー掛の江藤さんです

全教会別席団参、毎日おぢば伏せ込みひのきしん

「教祖お入り込み百四十周年」記念期間中(六月十八日～七月二十五日)に「全部内教会から別席団参を」との打ち出しに呼応し、教祖に献上する「お供え物」を携え、全国から団参が続々到着しています。コロナ禍で中々おぢばがえりできなかったこともあってか、皆さんとてもいい笑顔でお帰り下さいます。また期間中には、毎日東礼拝場にて「お礼のおつとめ」がつとめられ(午前十一時半)、別席場前付近の本部境内地では「毎日おぢば伏せ込みひのきしん」が行われ、連日大勢の方々のご参加下さり、除草ひのきしんに伏せ込んで下さっています。

(午前十時～午後二時半)



修養科(第九六九期生) 門出式

五月二十八日、前期(第九六九期)修養科生、男子四名、女子四名、計八名が無事修養を終えられ、三ヶ月の成果を余すことなく発揮、所属教会長さんやお迎えにいられたご家族の前で、大教会神殿に於いて立派に門出のおつとめをつとめられました。昼食後、全員が揃って修了できたことの喜びを共に分かち合い、「教祖お入り込み百四十周年」におぢばでの再会を誓い合っ、それぞれ国々処々へと門出されました。



修養科(第九七二期生)

修養科第九七二期(五、六、七月)に、男子九名、女子九名、計

十八名が入科されました。

今期は若い方が多

く、「お入り込み記念」

でお帰り下さる大勢の

方々のお迎えにも活躍

してくれています。尚

今期の教養掛、及び助

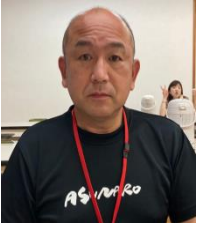
手は次の方々におつとめ頂いています。



・教養掛男子 山尾十四夫先生(都南・愛容楽)

・教養掛女子 安川慶子先生(河北・東六郷)

・教養掛男子助手 大北陽也さん(小山田・第九六九期修了生)



移動 西尾一文さん

詰所青年の西尾一文さんが、五月二

十日付けをもって、中山御分家宅青

年としてつとめられることになりました。長い間の詰所のお

つとめ本当に御苦勞様でした。新たな御用も頑張つて下さい。

スタッフ一同、応援しています。

編集後記

いよいよおちばへの帰参ラッシュが始まりました。この目を目

指して進められてきた詰所の受け入れ準備も万全です。お帰り下

さった信者様方を「二人も満足させずに帰さない」という強い思

いを持って笑顔でお迎えさせていただきます。詰所スタッフ一同、皆

様のお帰りを楽しみにお待ちしております。



発行 天理教高安大教会信者詰所

発行者 芦田孝廣

印刷 天理市守目堂町二五五番地一